

【経済を読み解く】人が住みたくなる場所（その1）

<2025/2/20 大分合同新聞掲載>

年明け間もない1月7日、北九州市では「ふっかつの北九州市！60年ぶりの人口転入超過！」という市長記者会見が実施され、全国報道で取り上げられるなど話題となりました。そこで今回は「人が住みたくなる場所」とは、というテーマで2回にわたり読み解いていきたいと思います。

■人が集まる日出町、四つの魅力

先ほどの北九州市では60年ぶりの転入超過ということでしたが、人口流出ほどの市町村も頭を抱えている問題だと思います。そこで、そのヒントを探るために、2019年からデータで直近の23年まで5年連続で転入超過となっている「日出町」に着目してみました（住民基本台帳ベース）。以下では、その日出町の現状を整理しつつ、なぜ選ばれているのかについて考えていきたいと思います。

日出町の人口は、14年と比較すると自然減の影響から幾分減少（▲2.2%）していますが、転入超過が下支えに働き、大分県全体の減少ペース（▲7.1%）に比べれば緩やかです。さらに、年齢階級別の人口分布をみると、0～59歳の人口割合が高く、ファミリー層など比較的若い層が多く住んでいることが分かります。こうした人口動態を反映する形で、財源の余裕を示す財政力指数は、大分県内では大分市に次いで高くなっています。

では、なぜ日出町には人が集まってくるのでしょうか。大きな要因としては（1）交通利便性が高い（2）労働環境が良い（3）住宅費が安い（4）豊かな自然環境や文化・歴史がある—という四つの魅力があるからだと考えられます。具体的に確認してみましょう。

■交通利便性、労働環境などの要素

まず（1）の交通利便性については、日出町には東九州の幹線道路である国道10号が通っているほか、鉄道の駅が四つも存在しており、自動車や鉄道を使うと大分市や別府市、中津市、大分空港まで1時間以内で行き来することができます。そのため通勤・通学や外出・旅行がしやすく、ファミリー層や若い年齢層が住みやすい場所と考えられます。

（2）の労働環境についても、賃金水準を一つの物差しとしてみると、日出町は大分県内でも高い方に位置付けられそうです。市町村ごとに賃金水準を比較する直接的なデータはないため、市町村税の算出に用いられる地域の総所得額を納税者数で割って、1人当たりの

所得額を簡易的に算出したところ、日出町は中津市に次いで県内で4番目に高いことが分かります。これは前述の通り、交通利便性の高さから通勤可能な賃金の高い企業の選択肢が多いことに加え、日出町の中にも相対的に賃金が高いと言われる半導体関連企業の立地が見られることも、要因の一つとして考えられます。また、さまざまな産業がバランスよく分布しているため、働き手の多様なニーズに対応しやすいという意味でも、労働環境が良いと言えるかもしれません。

また、(3)については住宅地の土地代が隣の別府市の3分の2程度と安く、借家も広くて安いところが多いことも人気がある理由の一つでしょう(都道府県地価調査、住宅・土地調査)。住宅費は人生の3大支出の一つと言われますので、その支出が抑えられることは、特にファミリー層や若い層に歓迎されそうです。

このほかにも(4)の海と山に囲まれた風光明媚(めいび)な土地であることに加え、城下かれいや酒などの名産品があることや、帆足万里や滝廉太郎にも縁があり文化・歴史を感じられる点なども、老若男女問わず親しみやすい魅力となっていることも考えられます。

「人が住みたくなる場所」は人によってさまざまではありますが、日出町の例から考えると、交通利便性、労働環境、住宅費、自然環境・文化・歴史は、一つの要素として挙げられそうです。今回は、これらの点を大分県全体に広げて考えてみたいと思います。(日本銀行大分支店 山本啓太郎)